第６号様式（第19条関係）

事　業　者　排　出　量　削　減　報　告　書

（宛　先）　京都府知事	2024　年　7月　31日
報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 広島県福山市曙町1-13-15	報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） 株式会社　エフピコ 代表取締役　社長　安田 和之 電話番号：084-953-1145

主たる業種	プラスチック製容器製造業			細分類番号	1	8	9	2
事業者の区分	京都府地球温暖化対策条例施行規則	☒ 第12条第１項第１号 ☐ 第12条第１項第２号又は第３号 ☐ 第12条第１項第４号					
計画期間	令和 5 年 4 月から令和 8 年 3 月まで						
基本方針	エネルギー消費効率の改善・生産性向上により前年度対比0.5%の温室						
計画を推進するための体制	工場長を長とする環境経営体制の設置・実施計画の作成と実績及び進捗管理システムを構築する						

温室効果ガスの排出の量	基準年度（令和２～４年度）	第１年度（令和５年度）	第２年度（令和６年度）	第３年度（令和７年度）	増減率
事業活動に伴う排出の量	2,927.4 トン	3,982.6 トン	トン	トン	36.1 パーセント
評価の対象となる排出の量	2,911.2 トン	3,982.6 トン	トン	トン	36.8 パーセント
実績に対する自己評価	電力会社の排出係数の増加により排出量増加となったが、電力使用量の削減に成功。				

原単位当たりの温室効果ガス排出量等	事業の用に供する建築物の用途	原単位の指標	基準年度（令和４年度）	第１年度（令和５年度）	第２年度（令和６年度）	第３年度（令和７年度）	増減率
	工場	事業活動に伴う排出の量（生産数量 x 1/10）	2.38	2.96			24.37 パーセント
		事業活動に伴う排出の量（　　）					パーセント
	実績に対する自己評価	生産アイテムの変更による、原単位の上昇(令和4年度比)					

重点的に実施する取組の実施状況	基準年度（令和４年度）	第１年度（令和５年度）	第２年度（令和６年度）	第３年度（令和７年度）	備考
	25 パーセント	62 パーセント	パーセント	パーセント	

具体的な取組及び措置の内容		
	令和５年度	旧式コンプレッサーの更新
	令和６年度	工業用水循環ポンプユニットの更新
	令和７年度	旧式エアコンの更新

通勤における自己の自動車等を使用することを控えさせるために実施した措置		
	措置の内容	未実施
	上記の措置を実施した結果に対する自己評価	工場周辺の交通事情により実施不可

森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減した量	区分	第１年度（令和５年度）	第２年度（令和６年度）	第３年度（令和７年度）	備考
	森林の保全及び整備によるもの	トン	トン	トン	
	地域産木材の利用によるもの	トン	トン	トン	
	再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの	トン	トン	トン	
	グリーン電力証書等の購入によるもの	トン	トン	トン	
	温室効果ガス排出量の削減又は吸収の量の購入によるもの	トン	トン	トン	
	合計	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン	

地球温暖化対策に資する社会貢献活動	プラスチック資源循環に資する自主的な取り組みとして「エフピコ方式のリサイクル」を拡大するためにリサイクル工場の見学の受け入れを3カ所のリサイクル工場と６カ所の選別センターで実施しております。
特記事項	循環型社会の構築に向けて「エフピコ方式（トレーｔｏトレー（R）ボトルｔｏトレー（R））」リサイクルの普及に努めております。

注１　該当する☐には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。
２　「細分類番号」とは、統計法（平成19年法律第53号）第２条第９項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。
３　「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の３年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。
４　「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。
５　「重点的に実施する取組の実施状況」とは、温室効果ガスの排出の量を削減するために重点的に実施した取組の実施率を地球温暖化対策指針で定める方法により算出して記入し、その算出の根拠となる資料を添付してください。